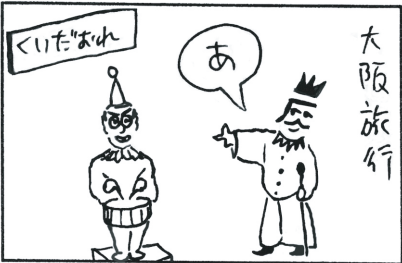
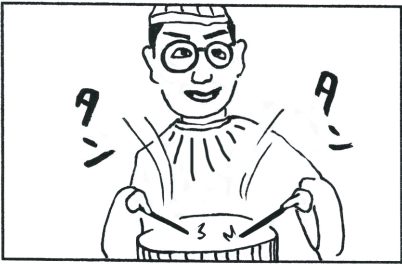
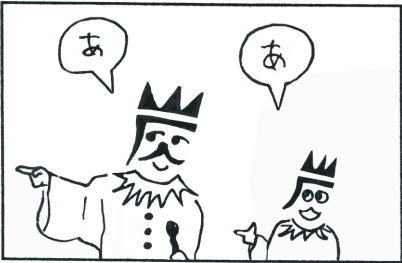
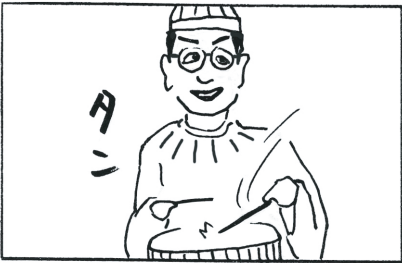


亜炭王

No.185
たつのくちけいこ



大阪旅行



亜炭香堂2階で開催中

いろは横丁の亜炭香堂の2階では、一般家庭から借り受けた埋木細工をエピソードとともに紹介する「わが家の埋木細工展」を開催中だ。埋木といえは鷹の置

き物や高級盆など有名なものが、比較的小ぶりの生活雑器も数多く作られており、今回の展示ではそうした茶托、茶身、小皿、ネクタービンなどの生活感あふれる30数点を見ることが出来る。何百万年も前に埋もれた木を掘り出して花開いた工芸文化が、時代の波に埋もれ

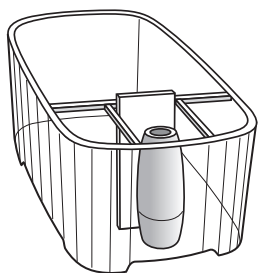


展示会場の様子。窓には外光を透かした「ウモレタラホリオコス」の文字が光る

「転任祝いとして上司からいただき、今でも年に1回大事に使っている」ネクタイピンとカフスのセット、記念品として相当数を頒布したと思われる鯛の形の茶托（実物を展示中）などからは、当時の暮らしぶりだけでなく、現在の消耗品的なギフト感覚とは異なり、心を込めて立派なものを送った往時の人々の心意気の一端が垣間見える。会場には、この展示を現存する作品のアーカイブ化の端緒としたいという主催者の呼びかけに応じて、自宅にある埋木細工を探し出して訪れ、撮影してもらう人もいた。

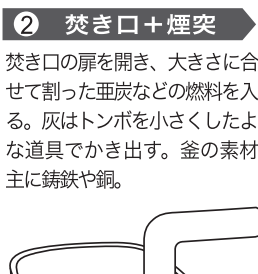
「わが家の埋木細工」展

てっぽう風呂の進化



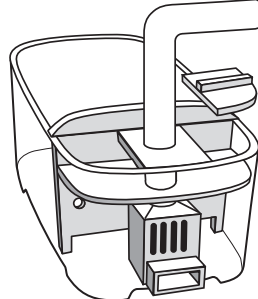
① 初期形式

最も基本的なてっぽう風呂の構造。図は喜多川歌麿の肉筆画「寒泉浴図」に描かれた風呂で、やけど防止の立て板が湯舟を仕切っている。桶はもちろんタガで締めた木桶。



② 焚き口+煙突

焚き口の扉を開き、大きさに合わせて割った亜炭などの燃料を入れる。灰はトンボを小さくしたような道具でかき出す。釜の素材は主に鉄や銅。

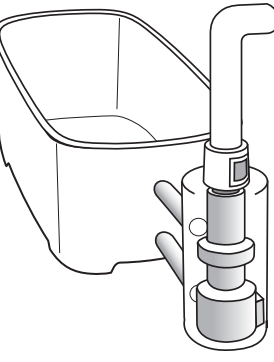


③ 上がり湯を分離

図の早沸釜の場合、下の釜から上がり湯を導入するパイプが板を貫通している。上がり湯という発想は以降の外釜式構造に受け継がれ、注湯性やシャワーへと発展する。

④ 外釜式

ガス化に呼応して、より触火効率のよい循環式ボイラー、バランス釜などの外釜式が考案され、やけどの心配がなく浴槽が広く使えるのでよるこばれた。内釜式は、釜はガス対応型でも外観が木桶のままのものが過渡期的に残り、それをてっぽうという呼ぶ人もいた。この後集中給湯式へと移行する。



家庭

てっぽう風呂

亜炭とはつかず離れずの関係で、今回のアンケートでも約半数がその名を挙げた「てっぽう風呂」。木桶の中に円筒形の釜を置いて湯を沸かす構造だが、段階的に改良されたものが同時期に混在しており、人によって記憶がまちまち。実際はどんなものだったのか調べてみた。

江戸時代、風呂といえは銭湯が行水。しかしその銭湯も足元に張った湯から上る湯気を浴びる蒸気風呂が中心で、現代のような湯につかるタイプの内風呂は、行水桶の発展形として生まれ

を上から入れて燃やす構造（図1）で、間を板で仕切って直接触れるのを防ぐ。火力は開口部に瓦などを置いて調節するが、吸気口も煙突もないため周りがススだらけになったという。母屋と風呂小屋が離れていた時代ならではの産物だが、入浴の回数自体が少ない状況下では、入れればそれなりに身体は汚れる落ちるため、「多少のススなど気にならなかつたし、そういうものだと思っていた」。それよりも寒い冬に戸外に出なければならぬという方が多かったという。

木桶の記憶は湯気の中

が焚き口を下に開き、煙突をつけた構造（図2）。釜の中は火格子（ロストル）で上下段に区切られており、上に燃料を入れ、落ちた灰を下からかき出す仕組み。これを分けた2つ口タイプもある。煙が煙突で屋外に排出されるようになったことで、母屋への設置も可能になった。また桶の仕切り板も改良されて次第に大きくなり、板の下から流れ込む水があたためられて上の穴から出てくる循環構造が明確化する。湯温はこの穴を栓で開け閉めして調節する。しかし熱気は多くは真上に逃げるため煙突の先で炎が上がることもあり、「お空ばかりあたたまる」ともいわれた。



三木亜炭記念館のてっぽう

湯槽に通ず。この上に小分けされた桶の形に合わせたフタがつく。今回の聞き取りでは「うちのこのタイプ」という声が多かったが、設置環境に差があり、また釜の構造、桶内の仕切り方、排灰・排煙構造などが個別に進化したため、さまざまな組み合わせが多数存在した。図の釜は昭和6年に東京瓦斯から発売された「早沸釜」。釜中央の4本の貫通穴にも水が入り込んで広い表面積で熱交換が行なわれるためかかる時間が短縮された。それでも満々と張った水がすぐあたたまるわけではなく、人が入って七分程度の少ない水でなんとかやりくりしたなどの苦労話が多く聞かれた。

次に登場するのが、桶と燃焼部を分離した外釜式風呂（図4）。釜の容量と熱交換面積が増えたことであたためる湯量が増え、湯舟もゆったり使えるようになった。しかし燃料が亜炭である以上いわず「煙問題」は相変わらず。公害が社会問題化した昭和30年代以降、仙台市が強力に押し進めた石油・ガスへの転換策に対応して釜も変化し、てっぽう風呂は生活の現場から徐々に姿を消していった。

地の底のエロティシズム

切羽の女神の美しさを見よ

好評発売中！
定価 450円（税込み）
●毎週水曜日発売

fashion weekly

atan

秋の旅大特集

亜炭坑内ツアー

妄想トロツコでゆく

全プランに炭坑飯と温泉付！

10/8受付	先着10名様	仙台藩
岩倉炭坑	税込 4,800円	閉山
見どころ 平成まで現役！ 宮城県栗駒市にあった明治34年探掘権取得の老舗鉱山。平成に入ってから2000トンほどの亜炭を採掘していたが13年に閉山。 ●宮城県栗原市栗駒町文字東戸井沢		

10/8受付	先着5名様	仙台藩
監物炭坑	税込 5,800円	閉山
見どころ 20世紀末まで現役 小規模ながら坑内掘りを2000年近くまで続け、トロツコファンなどの間でも話題だった鉱山。坑道は第1・第2大炭坑の2本。 ●山形県新庄市鳥越休場		

10/15受付	先着15名様	仙台藩
芦の口炭坑	税込 1,980円	閉山
見どころ 代表する坑 八木山で唯一の炭坑、金剛沢等と並ぶ大規模な坑の一つ。炭層は薄かったが、かつては良質な亜炭を産した。現在は住宅地。 ●宮城県仙台市太白区恵和町		

10/8受付	先着5名様	仙台藩
千貫森炭坑	税込 5,800円	閉山
見どころ 最大級の鉱山。 創業、昭和44年 2坑、大日向坑。 宮城県大崎市三本木新町		

10/8受付	先着5名様	仙台藩
武蔵野炭坑	税込 1,980円	閉山
見どころ 日豊鉱業が運営。燃料としてではなく消臭・有機固形肥料の原料として採掘中。 埼玉県飯能市阿須		

10/8受付	先着5名様	仙台藩
八木山〜西多賀	税込 1,980円	閉山
見どころ リクエストにお応えして 前回企画の復活です！ 毎週火曜出発 税込 これらのツアーは架空につき応募はご遠慮ください。すべて実在ですが事業終了につき坑内に立ち入ることは出来ません。		

他にも炭坑ツアー商品多数

ATAN TRAVEL

亜炭坑内ツアー

お申し込み
お問い合わせ

ATAN 亜炭交通社